

「5 月度研修会／先端研」報告

修習技術者支援実行委員会 委員補佐
中村 聡 技術士(建設部門)

1. 研修会概要

日 時 平成 23 年 5 月 14 日 (土)
13 : 00～20 : 00
主 催 社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会 場 日本技術士会葺手第二ビル 5 階

2. 研修会の内容

開催説明・講師紹介 修習技術者支援実行委員会 司会	13:00 石川久吉
開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:00～13:05 小林 進
講演① 「コミュニケーションの 基本～技術者に必要なコミュニ ケーション力～」 日産自動車(株)	13:05～14:25 増島 和彦氏
休憩	14:25～14:35
講演② 「問題発見と問題解決に おける解決案の立案」 リコーITソリューション(株)	14:35～16:00 吉川 博晴氏
第 280 回先端複合技術研究会 司会	16:00～18:00 高橋 康朗
情報交流会	18:00～20:00

3. 研修会の参加者

今回の出席者は 50 名で、「コミュニケーション能力、問題発見・解決能力」というテーマにより、幅広い年齢層及び技術部門からの参加があった。

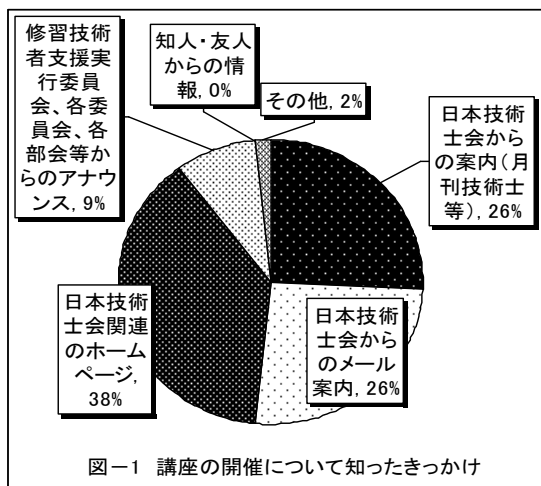


図-1 講座の開催について知ったきっかけ

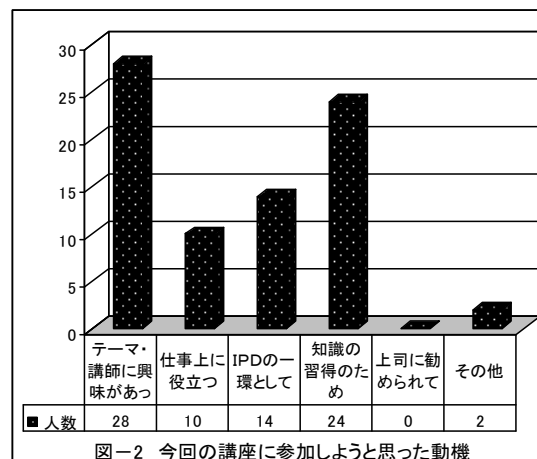


図-2 今回の講座に参加しようと思った動機

参加のきっかけは図-1、参加の動機は図-2にそれぞれ示すようなアンケート結果であった。

4. 研修会状況について

今回の研修会の課題は「業務遂行能力」、テーマは「コミュニケーション能力 問題発見・解決能力」である。講師の方々から貴重な具体的手法を紹介して頂いた。

今回の講義は座学に加えロールプレイも行われ、講義内容を「体験」することによって、より理解を深めるものであった。

◆ 講演①について

増島氏の講演は、コミュニケーションの基本は話し手と聴き手のキャッチボールでありながら、実際はコミュニケーションのキーは聴き手側にある事を強く強調されていた。

ロールプレイでは二人一組になり、与えられたテーマについて相手方に説明した。聴き手の態度や表情を変えることで、話し手が受ける印象や話しやすさが大きく変わることを体験した。



写真 1 : 増島氏の講演状況



写真 2：ロールプレイの状況



写真 4：グループ討議の状況

◆ 講演②について

吉川氏の講演は、問題解決のパターンを紹介され、その決定とフィードバックについてのプロセスを説明された。また、数ある問題解決法の中から、その手法として以下の3点を紹介された。

- ①マインドマップ
- ②K J法
- ③なぜなぜ分析

その中で、③のなぜなぜ分析を取り上げて以降のグループ討議を行った。グループ討議は仮想事例を与えられ、そこから課題と問題点を掘り下げていった。

なぜなぜ分析については、4月度研修会にて紹介された「TRIZ」手法でも取り上げられていた。今回、また違った視点からのアプローチで講演され、グループ討議を組み入れることで、さらに理解を深めることにつながった。討議は短い時間ではあったが、活発な議論が行われた。講演の最後に、なぜなぜ分析を行うことによって、現象としての問題と本質的な問題を見極める方法のアドバイスをいただいた。



写真 3：吉川氏の講演状況

5. 先端複合技術研究発表会

修習技術者の①村上正人氏（電気電子部門）、②寺西功一氏（建設部門）、③外山篤氏（電気電子部門）の三名の発表が行われ、活発な質疑応答が行われた。

①村上正人氏の発表は、「鉄道防災センサシステムの取組みと課題」と題して、土砂災害時に鉄道軌条の変状を感知して知らせるシステムについて、その取組み内容と今後の課題について発表された。発表は実証実験の様子も紹介され、参加者の興味をひくものであった。

②寺西功一氏の発表は、「地図表現の3次元化への取組」と題して、紙地図に地形を立体表現するための技術について発表された。この技術を今後、技術者としてどうしていきたいかといった質問があり、目指すべき技術者像を見つめ直すきっかけになった。

③外山氏の発表は、「新規放送受信機設計におけるソフトウェア対応について」と題して、カーナビ用のラジオチューナーの開発業務について発表された。発表では業務を進めるにあたってのプロジェクトマネジメントを中心になされた。その分、開発製品の位置づけや技術的アプローチの説明が不十分となり、参加者から多くの質問や改善案の提言がなされた。

6. 情報交流会

研修会終了後、会議室で交流会を行った。交流会は多くの方が参加され、活気あるものとなった。遠方から参加されている方も多く、多彩な交流により有意義な時間を過ごした。

以上